

【共育ちR&D】 住まいと教育環境に係るアンケート調査結果

2026年8月

株式会社日本総合研究所

目次

1. 調査概要	2
2. 調査結果のポイント	3
3. 回答者属性	5
4. 回答結果	6

調査概要

未就学児～高校生までの子どもをもつ保護者を対象に、住まいと教育環境に関するWebアンケートを実施した。

調査名	住まいと教育環境に係る調査
調査目的	住まいや交通状況と教育に関して子育て世帯がどのように認識しているかの実態を把握するため、子どもの教育・体験機会の地域差、子育てをする上での住環境の満足度とその理由、教育移住の意向とその理由、放課後の受け皿に対する満足度とニーズについて明らかにする。また、障がい等がある子どもをもつ保護者の場合に、全体傾向とどのように異なるかを把握する。
調査チーム	株式会社日本総合研究所 共育ちR&Dチーム
調査手法	Webアンケート（モニター調査）
調査対象	未就学児～高校生までの子どもをもつ保護者（障がい等がある子どもをもつ保護者※を含む）（全国） 注：以下6つのいずれか1つ以上にあてはまる障がいを有する子どもの保護者を対象とした。（割付はなし） ① 身体障がいがある ② 知的障がいがある ③ 精神障がいがある ④ 発達障がいの診断を受けている ⑤ 知的障がい・発達障がいと診断されていないが、グレーゾーン（経過観察中）の子供がいる ⑥ 医療的ケアが必要である
回収数	3,000件
調査期間	2026年3月

調査結果のポイント①

住環境の満足度と その理由

- **住環境の全体満足度**：子育てや教育の観点から現在の住環境に「満足している」または「やや満足している」と回答した割合は62.7%であった
- **満足している理由**：「治安が良い（43.4%）」、「買い物施設が近い/アクセスしやすい（42.9%）」、「小学校・中学校が近い（41.0%）」が挙げられ、重視する観点がばらけた
- **不満である理由**：不満の理由トップ2は「交通の安全性に不安がある（21.7%）」、「駅やバス停が遠い（21.1%）」であり、交通アクセスや移動の安全性に関する課題が上位を占めた
- **最寄り駅等への距離との関係性**：住環境への満足度が高い層の7割は「自宅から最寄り駅等までの距離が徒歩10分以内」と回答しており、アクセスの利便性が満足度に直結している実態が示された

教育環境を理由とした 転居（教育移住）の 意向と課題

- **転居の検討・関心度**：子育てや教育環境を主な理由として、約4分の1（25.2%）の保護者が転居を検討したことがある、または関心があると回答した
- **公共交通機関による体験の制約**：転居を検討・関心を持つ層のうち約半数（47.3%）が、地域の公共交通機関の状況を原因として「子どもの体験の機会に制約を感じている」と回答した
- **転居に踏み切った割合ときっかけ**：実際に転居を検討した層のうち56.0%が「実際に転居した」と回答。きっかけとしては「入園/入学/進学タイミング（23.0%）」や「子どもの成長に伴う住居環境の必要性（20.8%）」、「通学・送迎の負担（19.8%）」が多く挙げられた
- **転居の際に重視する要素**：1位「子どもの通学の負担の少なさ（39.6%）」、2位「保護者の送迎の負担の少なさ（26.2%）」、3位「バスや鉄道などの公共交通の利便性（24.9%）」となり、移動の負担軽減へのニーズが極めて高い
- **転居を見送った理由**：転居を経験・検討したものの見送った理由としては、「経済的に厳しい（34.5%）」が最多であった

調査結果のポイント②

放課後の受け皿や 習い事へのニーズ

- **全体傾向**：子どもに受けさせたい放課後の受け皿や習い事の要素は、「特になし（38.1%）」を除くと、「運動遊び・スポーツミックス型（20.8%）」が最も多く、次いで「水泳・体操など基礎運動重視型（17.4%）」、「学習サポート強化型（16.9%）」の順となった。保護者は放課後の時間に対して、体力づくりや運動機会の確保、および学習面の補完を期待していることがうかがえる
- **障がい等のある子どもの保護者**：障がい等（身体・知的・精神・発達障がい、グレーゾーン、医療的ケア児）のある子どもを持つ保護者においては、全体と同様に運動や学習への関心が高い。その一方で、「少人数、個別対応重視型（23.3%／全体12.4%）」や「送迎サービスの充実（21.1%／全体9.7%）」を求める割合が全体と比較して高い傾向にある

回答者属性

学齢区分での回収数について、バランスを考慮した上で割付を行い実施。

 = 調査時、割付を実施

年齢区分	回答数 (割合)	うち、障がい等のある子どもを持つ 保護者※
未就学児	600 (20%)	117 (25%)
小学校 1 ～ 2 年生	400 (13%)	82 (17%)
小学校 3 ～ 4 年生	400 (13%)	73 (15%)
小学校 5 ～ 6 年生	400 (13%)	58 (12%)
中学生	600 (20%)	92 (19%)
高校生	600 (20%)	51 (11%)
総数	3,000 (100%)	473 (100%)

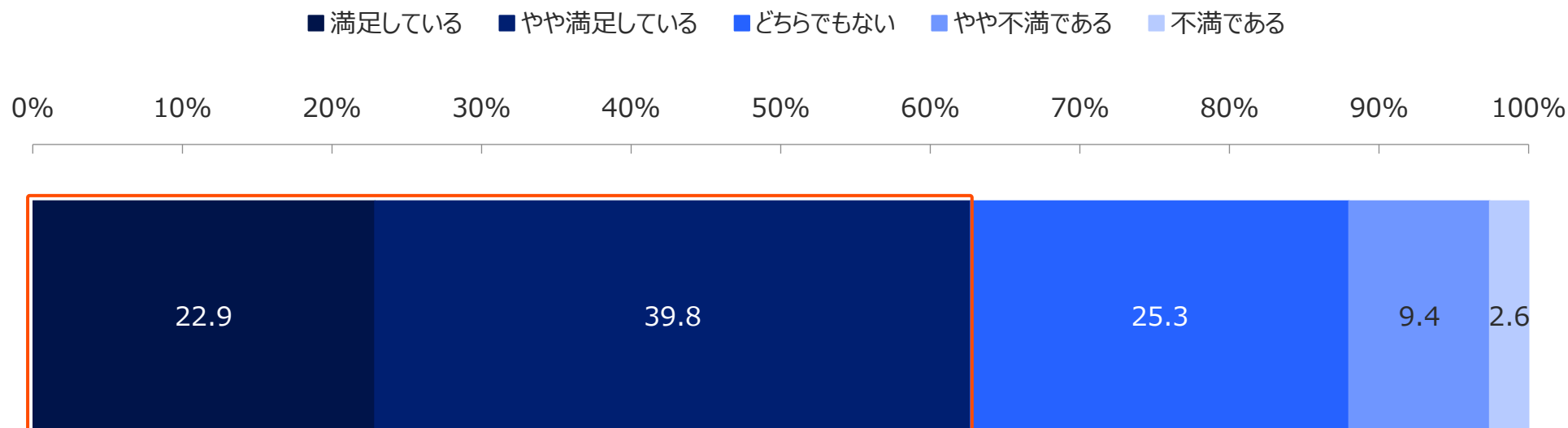
※「身体障がい」「知的障がい」「精神障がい」「発達障がいの診断を受けている」「知的障がい・発達障がいと診断されていないが、グレーゾーン（経過観察中）」「医療的ケアが必要」のいずれかの子どもがいると回答した保護者（複数選択可）

子育て・教育面での住環境満足度

設問1. 子育てやお子さまの教育を考えたときに、あなたは現在の住環境についてどの程度満足していますか。

- 子育てや子どもの教育を考えたときの住環境の満足度について、「満足している」または「やや満足している」と回答した割合は62.7%となった。

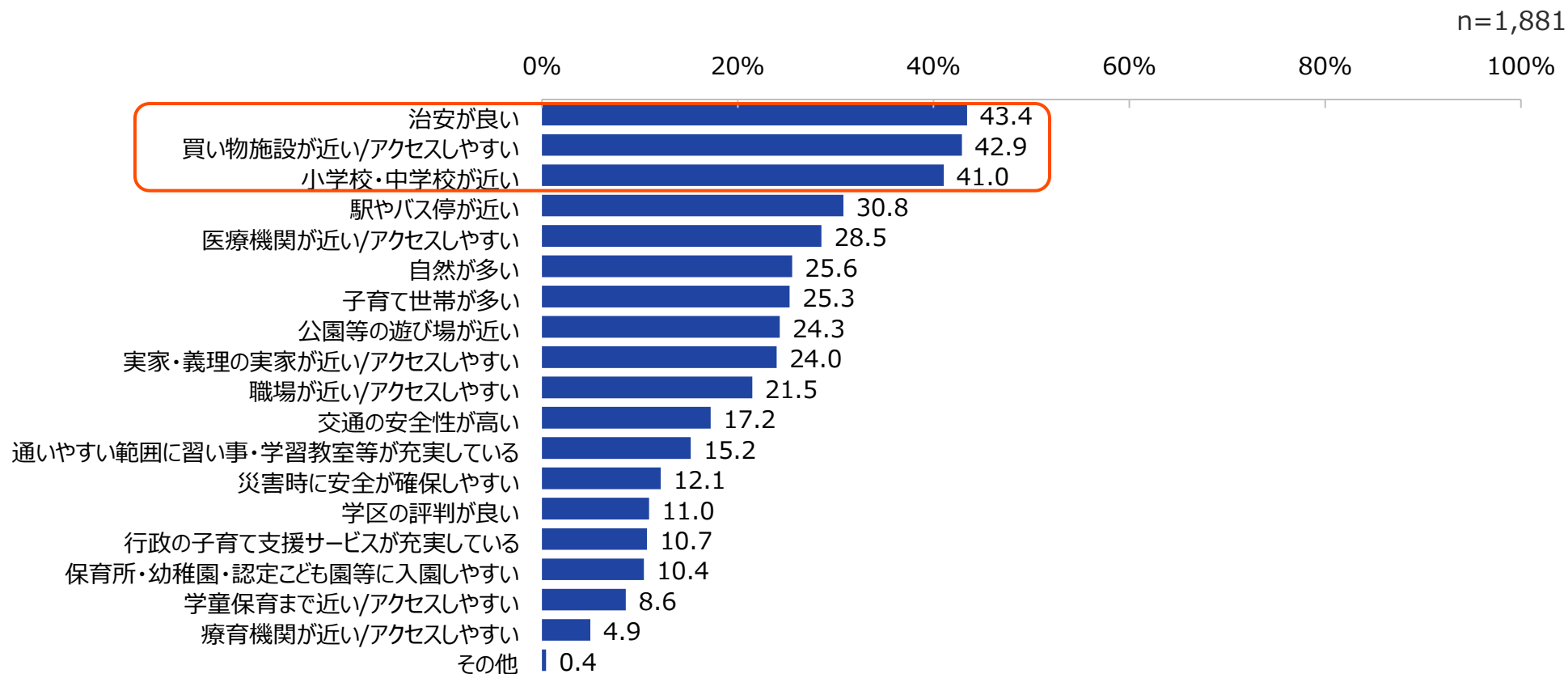
n=3,000



住環境に満足している理由

設問2. あなたが現在の住環境について満足している理由は何ですか。（いくつでも）

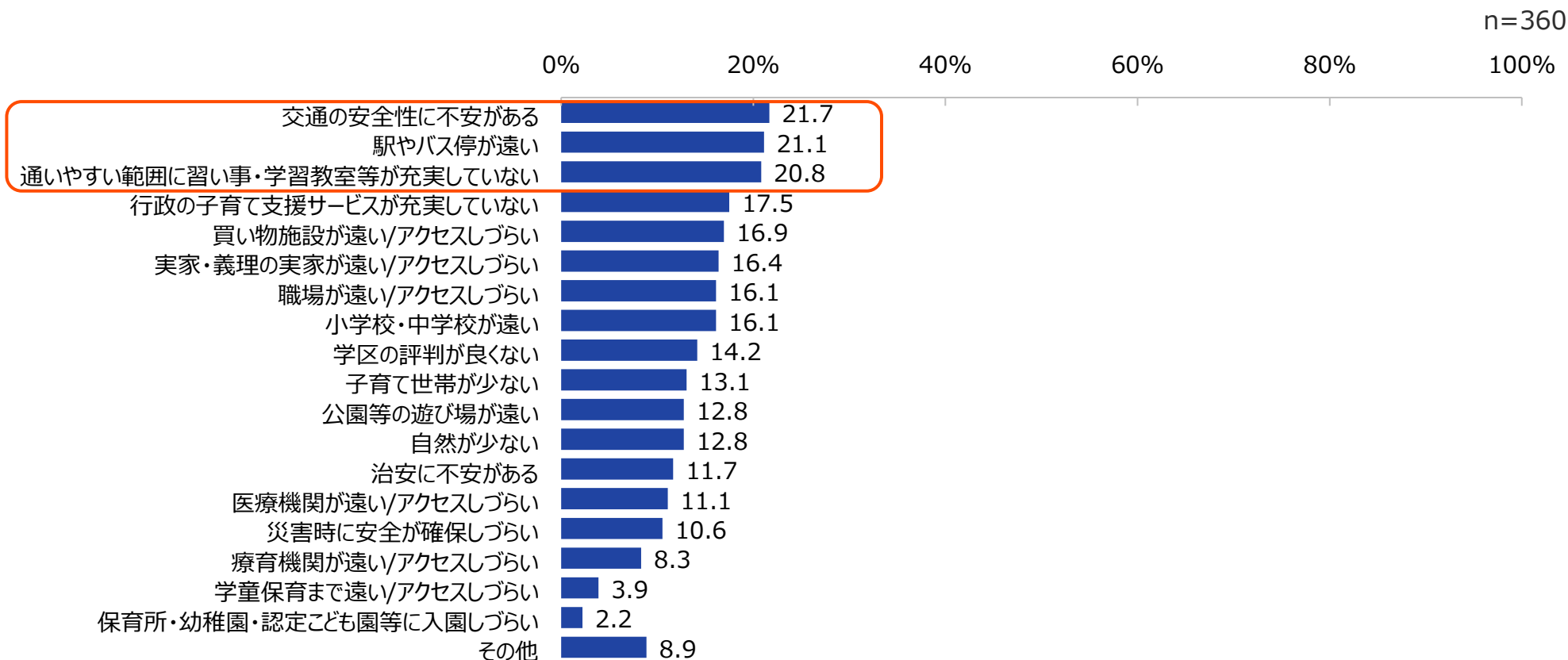
- 住環境に満足している理由としては、「治安が良い」（43.4%）が最も多く、次いで「買い物施設が近い/アクセスしやすい」（42.9%）、「小学校・中学校が近い」（41.0%）となった。



住環境について不満である理由

設問3. あなたが現在の住環境について不満である理由は何ですか。（いくつでも）

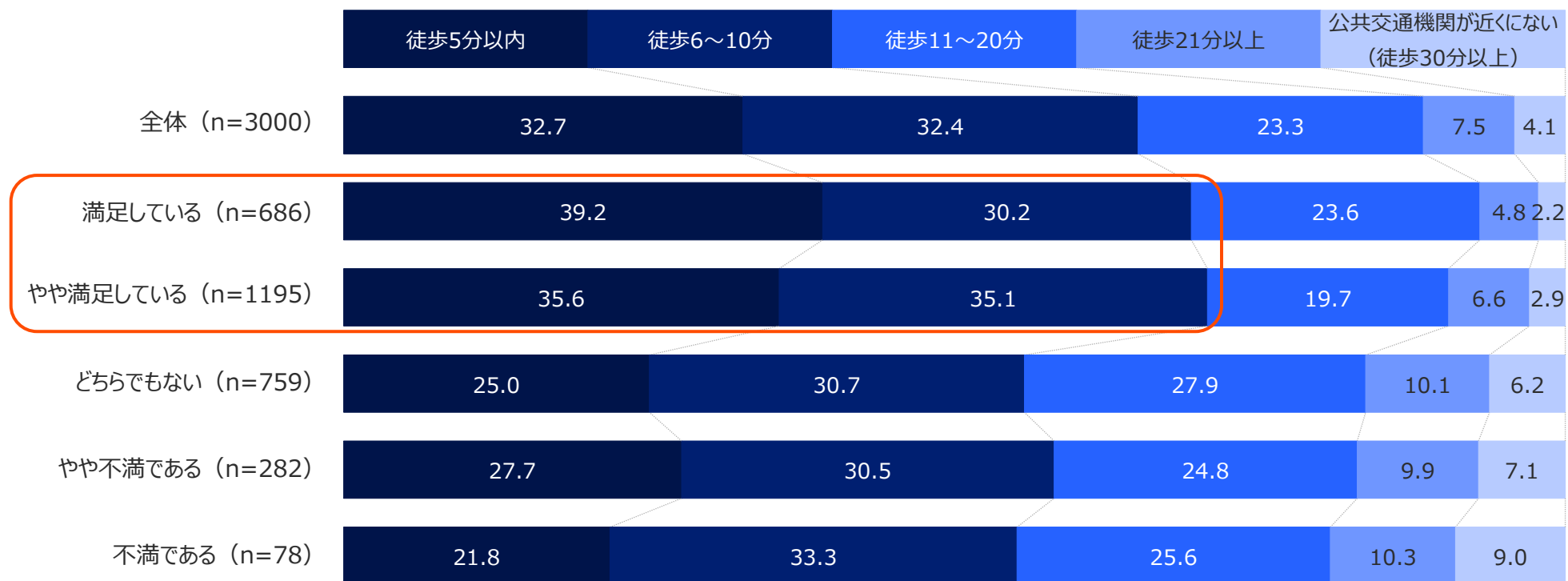
- 住環境に満足していない理由としては、「交通の安全性に不安がある」（21.7%）が最も多く、次いで「駅やバス停が遠い」（21.1%）、「通いやすい範囲に習い事・学習教室等が充実していない」（20.8%）となった。



子育て・教育面での住環境満足度×自宅から最寄り駅等までの距離

設問4. ご自宅から最寄りの公共交通機関の駅・バス停等までの距離を教えてください。

- 徒歩5分以内、徒歩6～10分がそれぞれ32.7%、32.4%となった（グラフの「全体」）。
- 設問1の子育て・教育の観点で住環境に満足度が高い（満足しているまたはやや満足している）と回答した方のうち、自宅から最寄り駅等までの距離が徒歩10分以内との回答が7割を占めた（赤枠）。



※2.0%未満は非表示

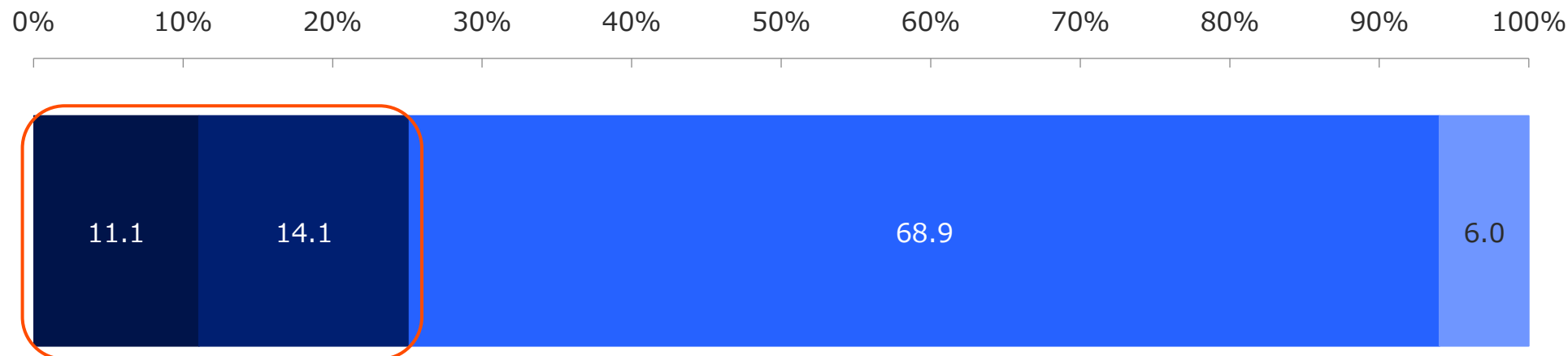
子育てや教育環境を主な理由とした転居の検討

設問5. あなたは子育てやお子さまの教育環境（学校・療育機関など）を主な理由として、転居を検討したことはありますか。

- 子育てや教育環境を主な理由として「転居を検討したことがある」「転居に関心はあるが、まだ具体的な検討はしていない」と回答した割合は25.2%となった。

n=3,000

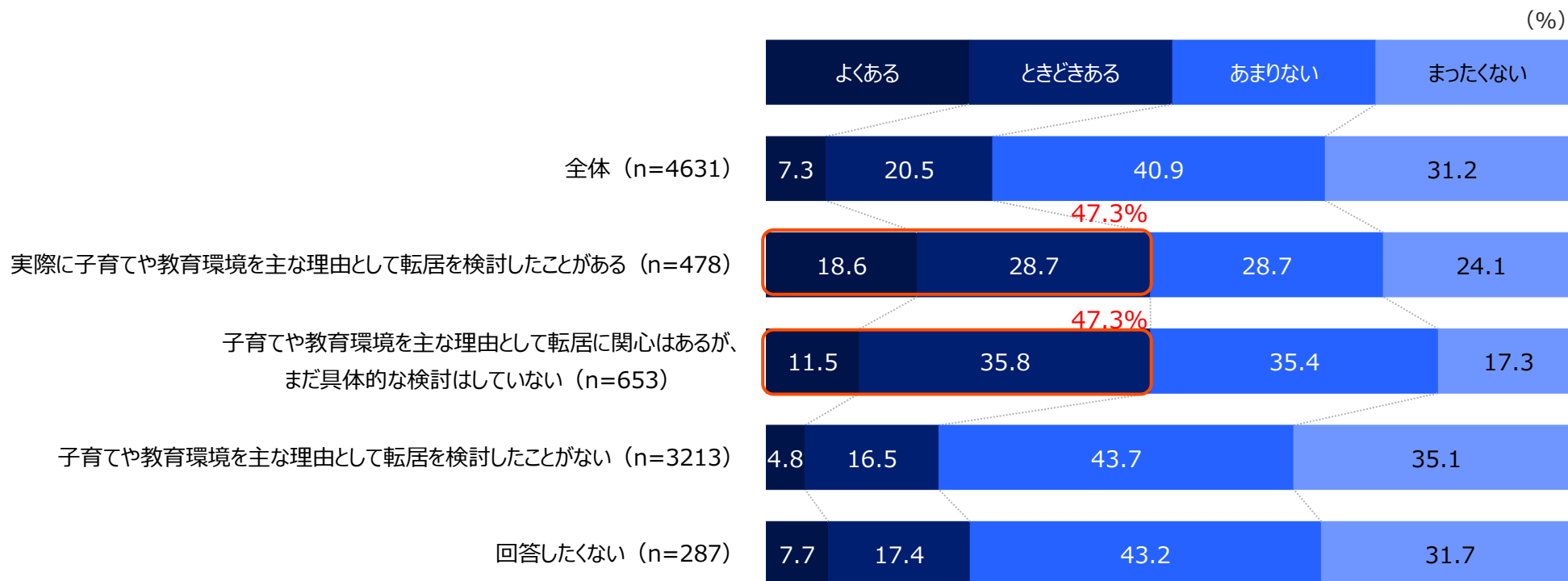
- 実際に子育てや教育環境を主な理由として転居を検討したことがある
- 子育てや教育環境を主な理由として転居に関心はあるが、まだ具体的な検討はしていない
- 子育てや教育環境を主な理由として転居を検討したことがない
- 回答したくない



子育てや教育環境を主な理由とした転居の検討×子どもの体験機会の制約

設問6. あなたはお住まいの地域の公共交通機関（鉄道・バス等）の状況が原因で、お子さまの体験の機会に制約を感じることがありますか？（例：乗り換えが多く移動の負荷が高いため、アウトドア等の自然体験の機会を作りづらい 等）

- 公共交通機関の状況が原因で子どもの体験機会に制約を感じたことが「よくある」「ときどきある」と答えた人は27.8%となった（グラフの「全体」）。
- さらに、設問5で「子育てやお子さまの教育環境（学校・療育機関など）を主な理由として、転居を検討したことがある/転居に関心がある」と回答した人をみると、その約半数が公共交通機関の状況の原因として体験の機会に制約を感じている（赤枠部分）。

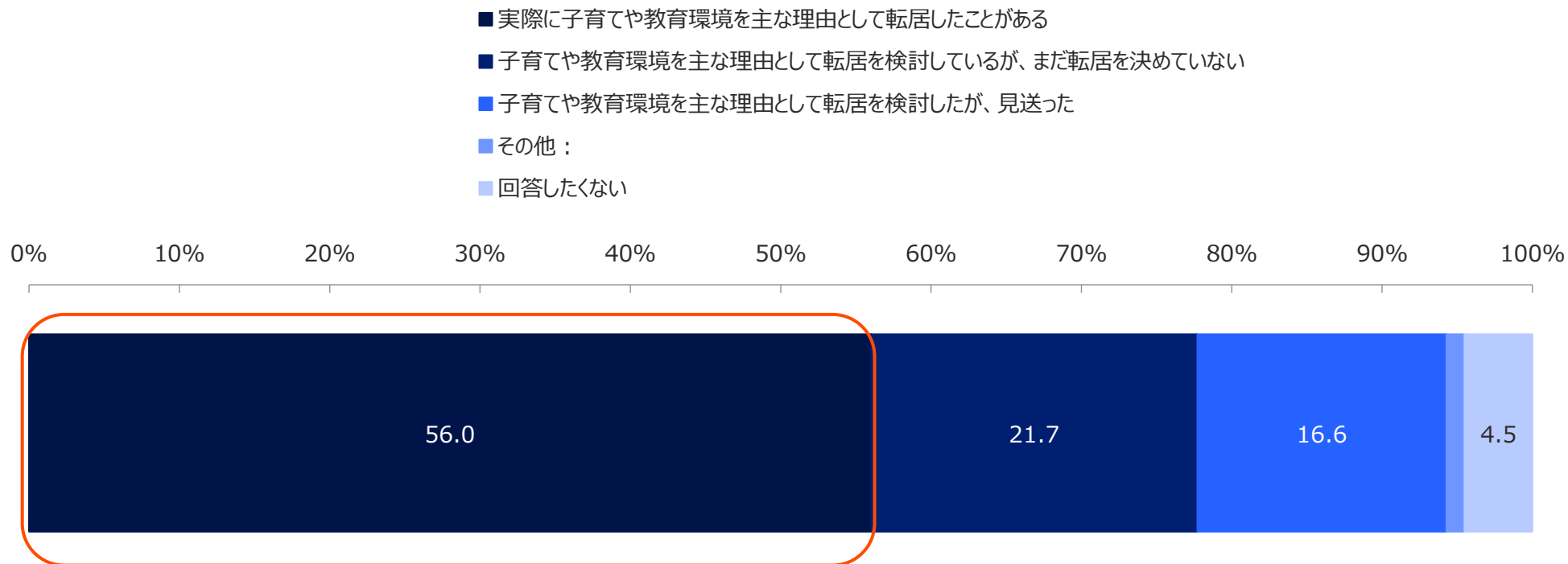


子育てや教育環境を主な理由とした転居の検討理由

設問7. 前問で「あなたは子育てやお子さまの教育環境（学校・療育機関など）を主な理由として、転居を検討したことはありますか。」で「実際に子育てや教育環境を主な理由として転居を検討したことがある」と回答した方にお伺いします。あなたは子育てやお子さまの教育環境（学校・療育機関など）を主な理由として、実際に転居したことがありますか。

- 子育てやお子さまの教育環境（学校・療育機関など）を主な理由として、「転居したことがある」（56.0%）が最も多く、次いで「転居を検討しているが、まだ転居を決めていない」（21.7%）「転居を検討したが、見送った」（16.6%）となった。

n=332

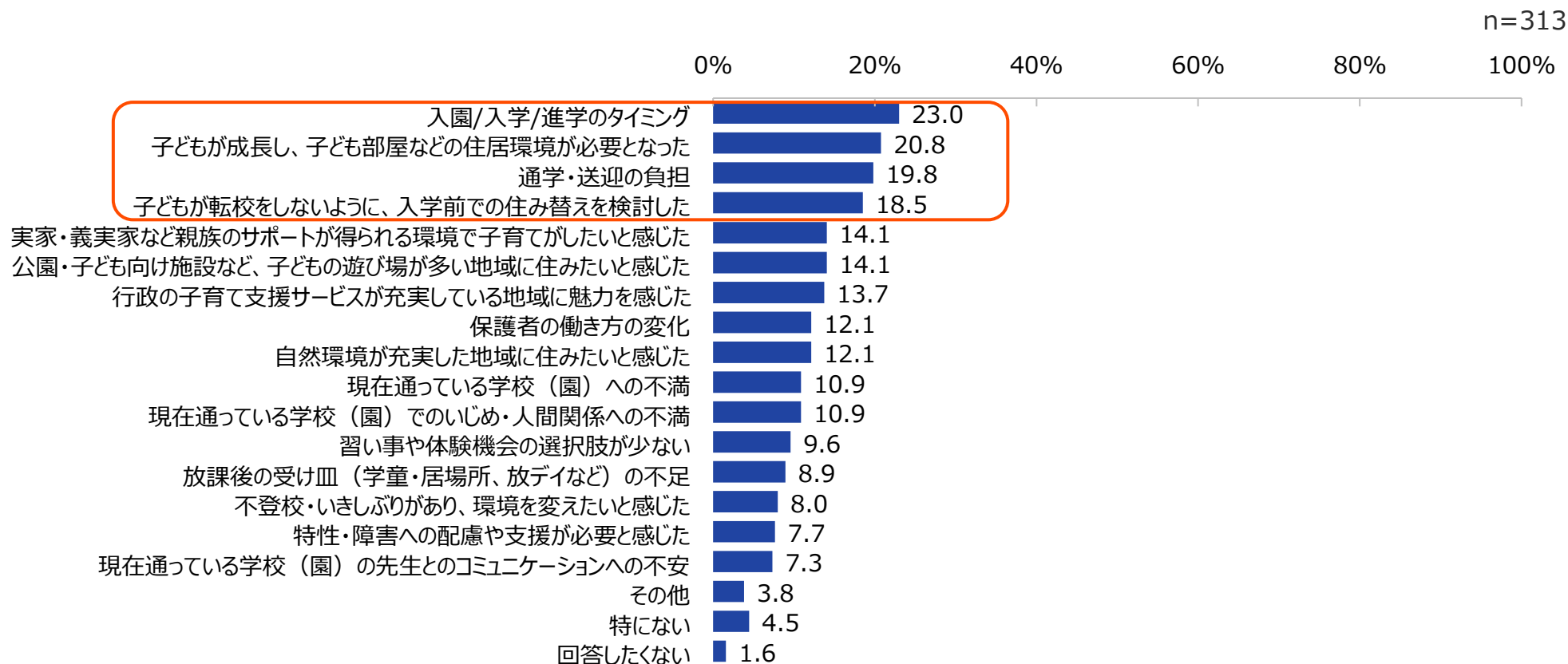


※2.0%未満は非表示

子育てや教育環境を主な理由とした転居のきっかけ

設問8. 子育てやお子さまの教育環境（学校・療育機関など）を主な理由として転居を経験/検討したきっかけをご回答ください。（いくつでも）

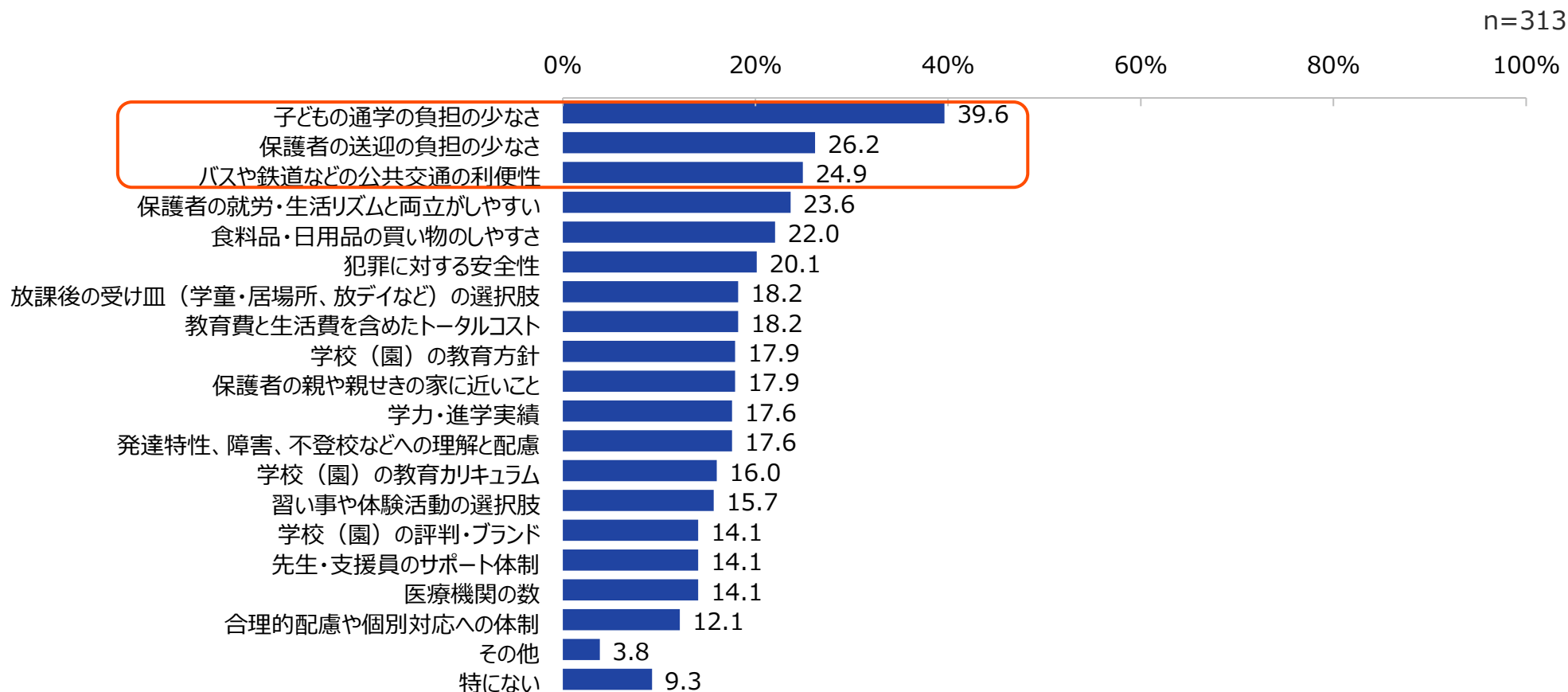
- 転居を経験/検討したきっかけとしては「入園/入学/進学タイミング」が23.0%と最も多く、次いで「子どもが成長し、子ども部屋などの住居環境が必要となった」（20.8%）「通学・送迎の負担」（19.8%）「子どもが転校をしないように、入学前での住み替えを検討した」（18.5%）となった。



子育てや教育環境を主な理由とした転居の際に重視する要素

設問9. 子育てやお子さまの教育環境（学校・療育機関など）を主な理由とした転居を経験/検討した際に、あなたが重視した（または重視したい）要素をご回答ください。（いくつでも）

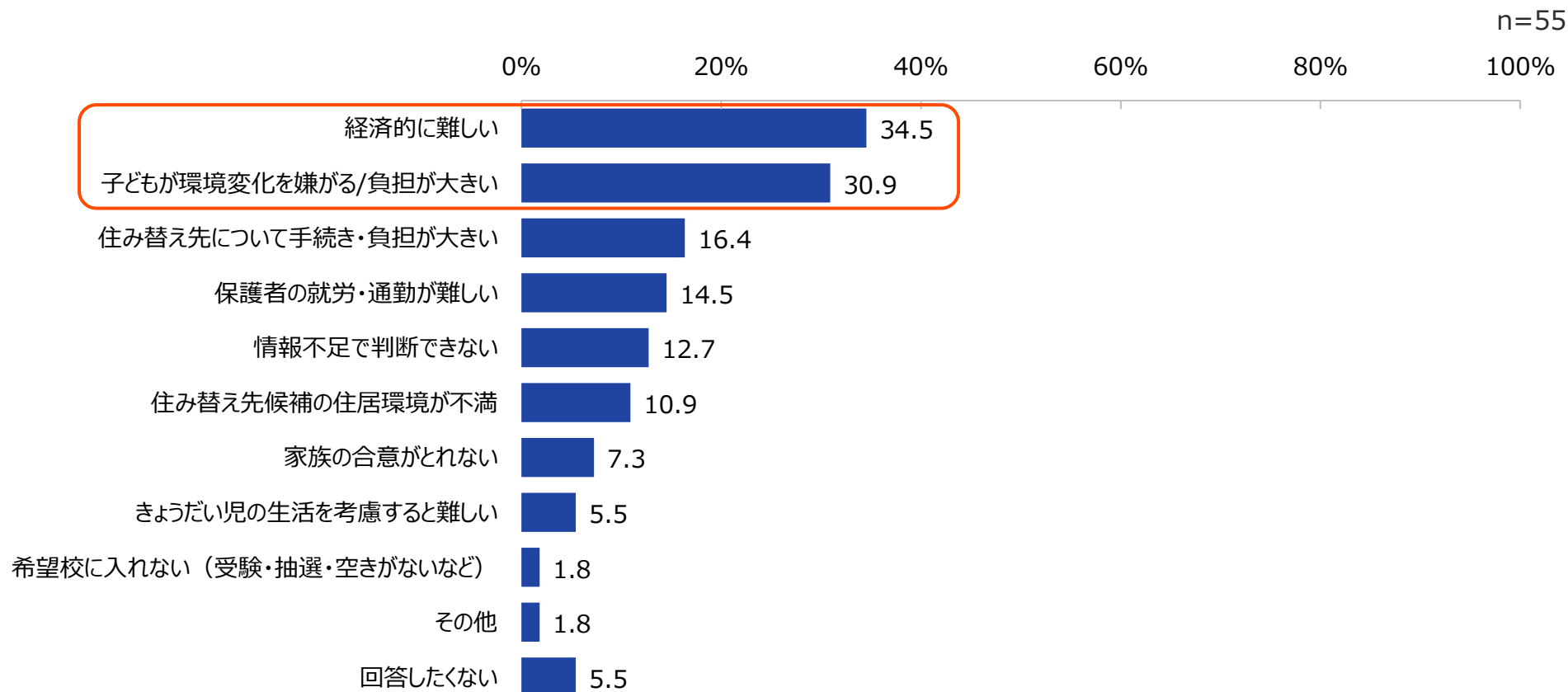
- 転居を経験/検討した際に重視した/重視したい要素は「子どもの通学の負担の少なさ」が39.6%と最も多く、次いで「保護者の送迎の負担の少なさ」（26.2%）「バスや鉄道などの公共交通の利便性」（24.9%）となった。



子育てや教育環境を主な理由とした転居を見送った理由

設問10. 子育てやお子さまの教育環境（学校・療育機関など）を主な理由とした転居を経験/検討した際に、見送った理由についてご回答ください。（いくつでも）

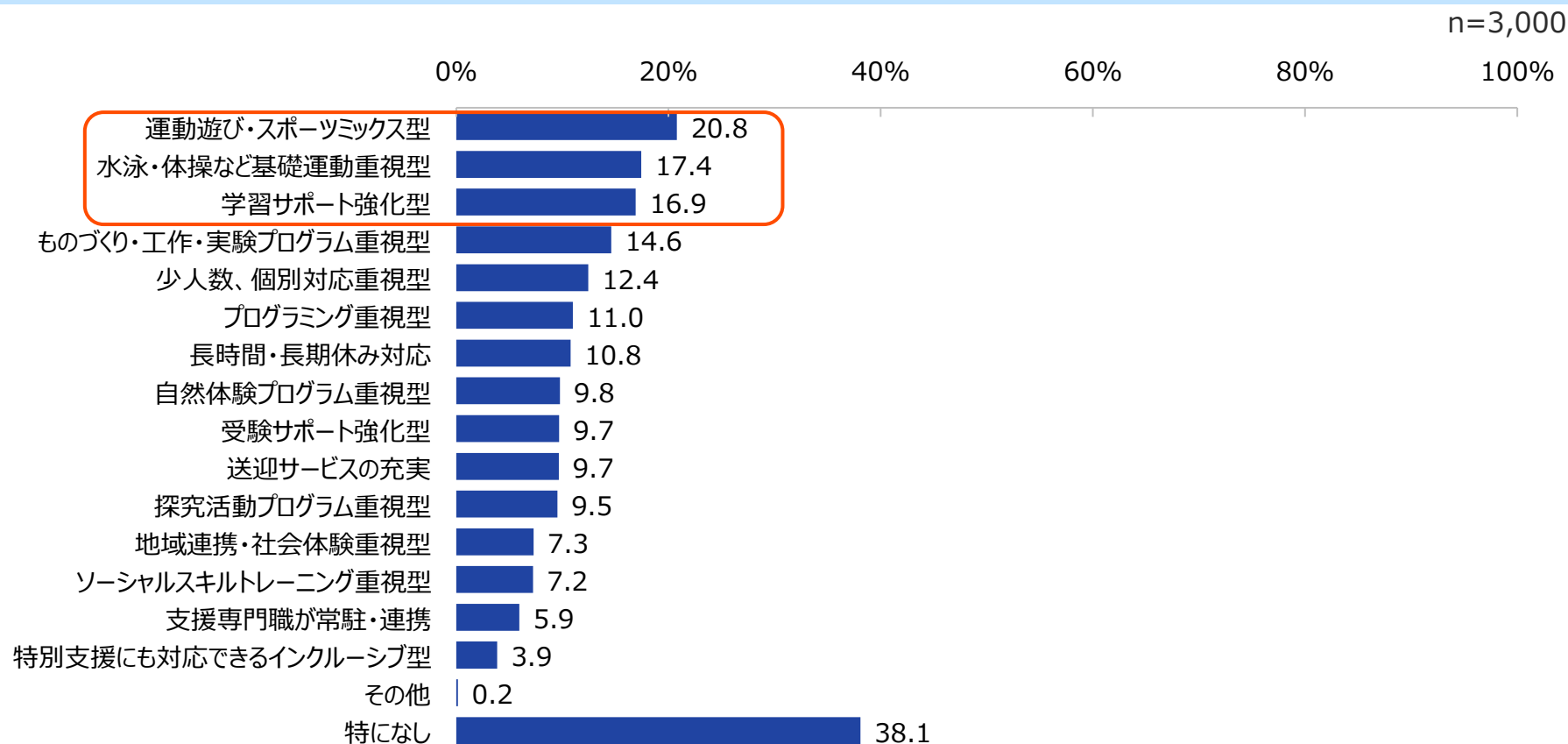
- 転居を経験/検討した際に見送った理由については、「経済的に厳しい」（34.5%）が最も多く、次いで「子どもが環境変化を嫌がる/負担が大きい」（30.9%）となった。



子どもに受けさせたい放課後の受け皿・習い事・体験機会

設問11. あなたがお子さまに受けさせたい放課後の受け皿（学童保育・居場所、放課後等デイサービスなど）や習い事、体験機会の要素についてご回答ください。（いくつでも）

- 子どもに受けさせたい放課後の受け皿（学童保育・居場所、放課後等デイサービスなど）や習い事、体験機会の要素については、「特になし」という回答以外では「運動遊び・スポーツミックス型」（20.8%）が最も多く、次いで「水泳・体操など基礎運動重視型」（17.4%）「学習サポート強化型」（16.9%）となった。



子どもに受けさせたい放課後の受け皿・習い事・体験機会（障がい等のあるお子さまを持つ保護者）

設問11. 「あなたがお子さまに受けさせたい放課後の受け皿（学童保育・居場所、放課後等デイサービスなど）や習い事、体験機会の要素についてご回答ください。（いくつでも）」

×SQ1. 「お子さまにあてはまるもの※があればご回答ください。（令和8年3月1日時点）」

※「身体障がい」「知的障がい」「精神障がい」「発達障がいの診断を受けている」「知的障がい・発達障がいと診断されていないが、グレーゾーン（経過観察中）」「医療的ケアが必要」のいずれかの子どもがいると回答した保護者

・ 障がい等のあるお子さまを持つ保護者について、子どもに受けさせたい放課後の受け皿の要素として「運動遊び・スポーツミックス型」が26.8%、「学習サポート型」が24.8%、「少人数、個別対応重視型」が23.3%、「送迎サービスの充実」が21.1%となり、全体と比較すると高い割合となった。

	n	学習サポート強化型	受験サポート強化型	ソーシャルスキルトレーニング重視型	少人数、個別対応重視型	特別支援にも対応できるインクルーシブ型	支援専門職が常駐・連携	自然体験プログラム重視型	探究活動プログラム重視型	地域連携・社会体験重視型	ものづくり・工作・実験プログラム重視型	プログラミング重視型	水泳・体操など基礎運動重視型	運動遊び・スポーツミックス型	送迎サービスの充実	長時間・長期休み対応	その他…	特になし
全体	3000	507	291	217	373	116	178	293	286	219	438	330	523	624	290	323	5	1143
	100.0	16.9	9.7	7.2	12.4	3.9	5.9	9.8	9.5	7.3	14.6	11.0	17.4	20.8	9.7	10.8	0.2	38.1
障がいのあるお子さまを持つ保護者	451	112	54	73	105	64	85	55	55	51	86	64	84	121	95	78	2	88
	100.0	24.8	12.0	16.2	23.3	14.2	18.8	12.2	12.2	11.3	19.1	14.2	18.6	26.8	21.1	17.3	0.4	19.5